

建設 ながの

(一社)長野市建設業協会
長野県建設業協会長野支部

広 報 誌

5
2026
(令和8年)
No. 237



信州の美しい春の風景

戸隠キャンプ場から仰ぎ見る、残雪を抱いた荘厳な戸隠山の岩肌。手前には鮮やかな新緑が芽吹いた大木が一本、雄大に立っています。その下、緑の草原には小さなテントが一張りたたずみ、奥には可憐なピンク色の桜並木が続きます。

新緑の息吹と厳しい冬の名残、そして人々の静かな営みが織りなす、信州の美しい春の風景です。

(中島 麻希)

目 次

2. ■ 「新支部長に鹿熊氏」

県建設業協会長野支部総会

3. ■ 「川浦会長を再任」

長野市建設業協会総会

4. ■ 幸せ実感都市『ながの』の実現に向けて

長野市建設部長 轟 誠

5. ■ 長野市議会建設企業委員と懇談

■ 長野市へキャリア教育参加名簿提出

6. ■ 「野球観戦・阪神タイガース応援記」

長野ニチレキ(株)社長 山森 香

7. ■ 「家の歴史を語る資料」

松代文化施設等管理事務所研究員 山中 さゆり

建協長野支部総会

新支部長に鹿熊氏

「会員ファーストで全力尽くす」

県建設業協会長野支部は5月13日、第78回定時総会をホテル国際21で開催し、2025年度事業報告と収支決算、26年度事業計画と収支予算などを承認した。任期満了に伴う役員改選で、支部長に鹿熊聡氏（鹿熊組社長）を新任。副支部長に小山田雄治氏（小山田組社長）、徳武信行氏（ナガノ建築サービス社長）を再任し、原山大輔氏（喜久屋商会社長）を新任した。新支部長に選任された鹿熊氏は「中東情勢などの影響もある中、難しい支部運営になると感じるが、皆さんの協力をいただきながら会員ファーストで全力を尽くす」と意欲を述べた＝写真。



飯島前支部長は「これまでの活動を通じて建設業界の現状や課題を行政と共有し、相互理解を深めながら、協会に対する信頼が大きく高まった4年間だった」と振り返り、「今後も業界の状況を正しく理解してもらうことが重要になる。素晴らしい仲間がいるこの協会を愛し、共に前へ進んでほしい」と呼びかけた。

25年度は、6月に労働安全衛生規則が改正され、企業は熱中症対策が義務化され、対応に迫られた。

担い手確保の取り組みでは、長野工業高校と連携し、丁張り実習や草刈り講習、インターンシップの受け入れ、土木科での講演授業などを実施。建築学科へ、建築委員会と女性部会による2回のセミナー、若手技術者との座談会なども展開した。

また、県建設業協会が長野工業高等専門学校との交流を開始し、意見交換会には支部からも若手社員が参加した。

会員数は、総合地質コンサルタント、原建が入会した一方、正会員1社、2号会員1社が退会し、前年度と同じ101社。

26年度は、週休2日制の導入や時間外労働の上

限規制など働き方改革への対応が進む中、労働災害防止や夏場の熱中症対策、全国的に増加するクマ出没への対応など新たなリスク対策を講じ、安全確保と人材確保の両立を図る。

26年度事業活動方針は次の通り。

△建設事業量の確保並びに最低制限価格引き上げ・入札制度の改善・工期設定等に関する調査研究、要望、陳情△災害協定に基づく災害復旧支援及び郷土保全のための自主的な災害復旧支援活動等△建設工事に係わる労働災害防止と安全活動の推進△建設業の秩序、倫理の確立、コンプライアンスの研究、暴力団の徹底排除△適正価格による受注に努め、健全な企業経営の推進△建設技術向上のための各種研究会と講習会の開催△社会的地位向上のための広報活動推進及び地域貢献ボランティア事業への取り組み△災害時の奉仕、道路・河川の清掃等地域社会奉仕活動の参加△建設現場の環境整備・美化等、建設業のイメージアップ活動の推進△建設業全体の技術の向上と労働災害防止を図るため会員の増強及び2号会員参画の推進△建築、土木の民間需要拡大のための調査研究と法律等の改正に伴う情報提供、会員サービス事業への取り組み△継続学習制度CPDS、CPDに対応した研修・セミナー等の開催△緊急時における連絡体系、出動組織の強化

正副支部長を除く役員は次の各氏。

【理事】△川浦俊樹（川浦土建社長）△龍神勉（川中島建設常務）△北野貴裕（北野建設社長）△小池毅夫（小池組社長）△田中章（更水建設工業社長）△高木垂矢子（高木建設社長）△服田豊（服田建設社長）△村井教郎（埴科建設社長）△大日方喜一（フクヤ社長）△藤森将一（藤森建設工業会長）△野澤敏（北信土建社長）△湯本宜成（松代建設工業社長）△村上孝雄（三谷組社長）△村松直敏（村松建設専務）＝以上再任△井上善行（大松建設社長）△伊藤由郁紀（守谷商会社長）＝以上新任

【監事】△野村和正（野村建設社長）＝再任△美谷島弘幸（日本総合建設取締役）＝新任

【相談役】飯島泰臣（飯島建設社長）△岡澤元夫（岡澤建設社長）

【顧問】△和田幸文（和田組社長）

川浦俊樹会長を再任

長野市建協 業界発展へ団結

一般社団法人長野市建設業協会は5月19日、2026年度通常総会を開き、任期満了に伴う役員改選で会長に川浦俊樹氏（川浦土建社長）を再任した。副会長には小山田雄治氏（小山田組社長）、徳武信行氏（ナガノ建築サービス社長）を再任、原山大輔氏（喜久屋商会社長）を新任した。専務理事は金井良雄事務局長を新任した。



会長に再任された川浦氏は「建設業界を取り巻く環境は厳しい課題が山積しているが、新役員一同、力を合わせて業界の発展に努力していく」と意欲を述べた＝写真。

25年度は、荻原健司市長に公共事業予算の持続的・安定的確保や建設業担い手確保に向けた「長野市モデル」の構築などを要望。市議会建設企業委員会との懇談会や、関係部局との土木・建築技術に関する懇談会を実施し、一定の成果を上げた。市からの委託で災害用土のう5000袋を作成し川合新田防災倉庫に保管したほか、2950袋を市内21支所などへ計10回に分けて搬送した。住宅相談ではリフォームや耐震化など18件に対応。広報活動として情報誌「建設ながの」を発行し、行政や市民への情報発信、会員間の情報共有に努めた。

人材育成の取り組みでは、建築委員会が市教育支援センター「SaSaLAND」で木工体験を実施したほか、女性部会がドローン体験会や現場見学会を開催。小中学校への講師派遣に向け、「学校教育への参加会員名簿」を市教育委員会に提出した。

このほか、新入会員として峯村建設、原建、マルオン商会の3社が入会。会員数は3月31日時点で94社（正会員78社、準会員1社、賛助会員15社）となった。

26年度は、担い手の確保・育成を進めるため、

児童・学生向けの現場見学会や木工体験活動等を進め、小・中学校で行われるキャリア教育へ、講師派遣や会社訪問受け入れが可能な会員名簿を基に、市教育委員会と連携するほか、女性や若者を含めた就労者が将来に希望を持てる職場環境の構築を図り、社会資本整備や災害復旧も含めた活動で協会の存在意義を高めていく。

正副会長、専務理事を除く役員は次の各氏。

【理事】

△飯島泰臣（飯島建設社長）△北野貴裕（北野建設社長）△野本大介（共和建設社長）△小池毅夫（小池組社長）△田中章（更水建設工業社長）△高木重矢子（高木建設社長）△服田豊（服田建設社長）△村井教郎（埴科建設社長）△藤森将一（藤森建設工業会長）△野澤敏（北信土建社長）△柳沢昌宏（柳沢土建社長）＝以上再任

△鹿熊聡（鹿熊組社長）△野澤祥廣（千広建設社長）△伊藤由郁紀（守谷商会社長）＝以上新任

【監事】

△野村和正（野村建設社長）＝再任

△井上善行（大松建設社長）△小林正明（前専務理事）＝以上新任

【顧問】

△湯本宜成（松代建設工業社長）＝以上新任



43 回目の 献血ボランティア

県建設業協会長野支部と長野市建設業協会は4月17日、長水建設会館で献血ボランティア活動を実施した。両協会は「人命尊重」「業界のイメージアップ」を目的に地域社会貢献活動に取り組んでおり、「建設で献血だ！」を合言葉に毎年2回実施している献血は今回で43回目。作業服姿の会員企業や協力企業の社員ら約50人が仕事の合間に訪れ、医師の問診で採血が認められた48人が会館前に待機した採血バスで400mlの献血を行った＝写真。

幸せ実感都市「ながの」の実現に向けて



長野市建設部長
轟 誠

4月1日付けで、長野市建設部長を拝命いたしました。どうぞ、よろしくお願いいたします。

日頃から、長野市建設業協会並びに長野県建設業協会長野支部の皆様には、長野市政並びに建設行政につきまして、格別のご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本市の令和8年度一般会計予算は、1952億円を計上しており、そのうち土木費は183億8000万円でございます。

建設部の主な事業について、ご紹介させていただきます。

様々な効果が期待される若穂SICの整備は、完成を令和12年度以降に見直し、現在は埋蔵文化財調査や側道の付け替え工事などを進めています。

長沼復興道路は国道18号と河川防災STや長沼小を結ぶアクセス道路で、災害時の資機材輸送路としても重要な位置付けで、現在は、河川防災STに隣接する区間と長沼小周辺の工事を進めています。

治水対策は、一般会計と下水道事業会計により事業を行っており、準用河川や排水路の整備、維持管理を行うとともに水門等の整備も行っております。

また、雨水調整池整備のほか、雨水貯留施設等の設置に対して助成を行うなど「流域治水」の取組を推進しております。

さらに、排水機場等の整備・維持管理や、浸水被害対策の今後の指針となる雨水管理総合計画を

策定しています。

道・水路の日常的な維持管理では、地域要望やパトロール、LINE通報等で確認した箇所の修繕などの他、災害時の通行止めや、崩落土や倒木の処理等を実施しております。

道路除雪は、2301路線、1498kmを130社の皆様にご協力をいただいております。

予防保全型の維持管理では、橋りょう、トンネル等の主要な道路施設は、5年に1回、1828施設の法定点検を実施し、令和10年度まで96施設の修繕を予定しています

市営住宅の建替事業では、老朽化している犀南団地を計画しており、解体・建替・入居者移転など複合的となることから、今年度は基本計画の策定と民間活力導入の可能性について検討いたします。

市有建築物の計画、設計、工事監理等を行う建築課では、学校やオリンピック施設等、市有建築物全般の長寿命化にも取り組んでおり、近年は「新築・改築」から「長寿命化改修・維持保全」に大きくシフトしています。

その他にも、地籍調査事業、危険空家等対策事業、住宅耐震化事業、狭あい道路整備事業等を実施しており、市政のさらなる発展のため、職員が一体となって取り組んでいます。

協会員の皆様が抱える様々な課題について、毎年、技術懇談会が開催されておりますが、今後も皆様のご意見、ご要望をお聞きしながら、課題解決に向けて取り組んでまいります。

結びに、地域の安全・安心の向上や市政の発展につながる社会基盤整備のためには、建設業に携わる皆様のお力が不可欠であり、今後もより一層のご支援、ご協力を賜ることをお願い申し上げます。また、長野市建設業協会並びに長野県建設業協会長野支部の持続的な発展と協会員各位のご健勝、ご活躍をご祈念し、就任のあいさつとさせていただきます。

そして、街はメディアになる。



矢木コーポレーション 葵社

長野市真島町川合2036番地 Tel:026-283-7000
Mail:yg@yagicompany.jp

地域を支える技術者集団

長野県土木施工管理技士会
長野支部

長野市岡田町124-1 長水建設会館内
TEL 026-227-6226 FAX 026-228-6231

次世代への技術継承目指し連携

長野市建協 市議会建設企業委員と懇談

長野市建設業協会は2月12日、長野市内のホテルで市議会建設企業委員会との懇談会を開き、公共事業予算の確保や担い手不足対策、建設DX推進などについて意見交換した＝写真。協会側からは正副会長、土木・建築の正副委員長ら9人、市議会側からは桜井篤委員長ら8人が出席した。

川浦俊樹会長は「建設業は地域経済の雇用を支え、市民の安全安心を守る“地域の守り手”。技術を次世代へ確実に引き継ぐためにも連携をお願いしたい」と求めた。桜井委員長は「厳しい財政状況ではあるが、地域活性化につながるよう、建設業に寄り添って考えていきたい」と述べた。

懇談では、鹿熊聡副会長が、道路や河川、農地整備など生活基盤に直結する公共事業予算や、防災・減災、インフラ老朽化対策を含めた国土強靱化予算の安定確保を要望。資材高騰や人件費上昇を踏まえ、最低制限価格算定方法の改善も求めた。また、人材流出への懸念を示し、将来を見据えた技術維持体制づくりへの協力を訴えた。



徳武信行副会長は、小中学校でのキャリア教育や現場見学会を通じた「長野市モデル」の構築を提案し、女性活躍推進に向けた快適トイレなどの整備費計上を要望した。小山田雄治副会長は、電子契約や電子保証導入など建設DX推進を求めた。

このほか、市内事業者の入札参加機会の維持や残土処分場の確保、除雪業務の担い手不足対策、熱中症や熊出没への安全対策支援などを要望した。

市議会側は、若者支援やICT活用、地域業者への配慮などに前向きな姿勢を示し、「具体的な改善提案等まで踏み込んだ議論が必要」と応じた。協会側も、市議会との連携を深めながら、今後も実効性ある協議の場としていくことで一致した。

長野市建協が市教育委へ キャリア教育参加名簿提出



長野市建設業協会は3月24日、市教育委員会が進めるキャリア教育への協力の一環として、会員企業から募った教育活動への参加企業名簿をまとめ、川浦俊樹会長と徳武信行副会長が丸山陽一教育長に提出した＝写真。

建設業界では担い手不足や職人の高齢化が課題となっており、同協会では次代を担う子どもたちに業界の魅力を伝える機会づくりを進めている。

昨年8月に開催した市との意見交換の中で、教育委員会からキャリア教育の一環として建設業の就業体験や講師派遣の提案があったことから、名簿を取りまとめた。

名簿には、児童・生徒の会社訪問を受け入れ可能な企業26社、学校への講師派遣が可能な企業17社を掲載。市内75の小中学校に対応する形で地区ごとに整理している。会員のいない地区については地区を越えた派遣にも対応する。

川浦会長は「子どもたちに建設分野の魅力を知ってもらい取り組みが重要。この名簿を通じて学校現場でのキャリア教育が一層活発化することを期待したい」と述べた。

名簿を受け取った丸山教育長は「建設業界の人材不足という課題も踏まえ、小中学校の段階で現実的な経験を積むことで、子どもたちが将来、建設業に関心を持つきっかけとなるよう有効に活用したい」と語った。



野球観戦・阪神タイガース応援記



長野ニチレキ(株)
社長 山森 香

みなさまこんにちは。

私は、阪神タイガースのファンのためシーズン中ホーム、ビジター合わせ年5回程度、球場に阪神タイガースの応援に行きます。これまで観戦した中で特に記憶と思い出に残る試合（古い話ですみません）と去年の某日甲子園球場観戦記を鉄旅と共に紹介致します。野球に興味ない方は、大阪方面の旅行に参考にしてください。

【ホームでの悪夢】

2009秋、甲子園球場、「赤星打球に飛び込み選手生活終了の日」

ライトスタンドセンターより前から3列目の横浜戦、雨で開始が遅れカッパを着ての応援、3回表ツーアウト満塁、内川のいいライナー性打球が自分の方向に、赤星ダイビングキャッチを試みるが届かない、立ち上がれないまま走者一掃の3塁打、現役最後のプレーを目の前で観戦。六甲おろし無。聖地では、結構な確率で負けます。

【ビジターでの最高の盛り上がり】

2014夏伝統の一戦、東京ドーム「大逆転」

レフト応援席ポール際、前から2列目、7回ツーアウト満塁から関本代打逆転満塁ホームラン。ビジターでの最高の盛り上がりでした。ハラハラドキドキの末に何とか勝利。東京ドームでは、通算勝率7割。

【甲子園球場観戦記・鉄旅と共に】

行き北陸廻り 長野駅発 8時39分「はくたか」 日頃南側より見ている妙高山を東側、北側から車窓より楽しめ白山連邦の眺めも素晴らしいので座席は、E席推奨。新幹線停車駅では珍しい島式1面2線の福井駅ホームを反対側に見て敦賀駅10時26分到着。2Fからの敦賀湾の景色を堪能し44分発「サンダーバード」乗換時間18分間、社内販売がありませんので飲物など補給。座席は、D列推奨です。敦賀駅発車後にトンネルに入りますがループになっていてトンネルを出ると一瞬敦賀湾と敦賀の街が高台より見えます。その後琵琶湖の湖水を眺めて大阪駅到着12時6分。大阪駅

周辺にて昼食後、ホテルにチェックインし身支度整え、阪神電車に乗り甲子園駅到着、ホームにある型枠式カラータイル工法・甲子園バージョン（下写真）を見て17時ごろ球場入り、ナイターは、緑の芝と黒土とのコントラストがとても綺麗です。野球観戦・阪神タイガース応援。この日は、試合終了後六甲おろし大合唱。

帰りは、名古屋廻り 朝食後チェックアウト、阪神百貨店にて某バウムクーヘンと別館にて阪神グッズ等を購入。新大阪駅11時18分発「ひかり」に乗り、停車駅は、「のぞみ」と同じで乗車時間もほぼ同じ、自由席に乗り少し節約します。空いていればE席推奨、発車後数分に鳥飼車両基地のN700系群の横を通過、某国産ウィスキー蒸留所を眺め京都駅、昨日と反対側の琵琶湖を少し観て関ヶ原の景色を眺望し名古屋駅12時31分到着。地下街エスカにて名古屋飯を堪能、社内販売がないので飲物等の補給をして14時発車の「しなの」に乗り。ちょっと値段はお高いですが、先頭車両グリーン車1列D席推奨、運転手さんの斜め後ろ、前方の景色、線路や路盤の傾斜等を運転手さん目線にて3時間楽しめます。姨捨駅周辺では、善光寺平の景色と田毎の月の田園風景を堪能すると帰ってきました感になり17時長野駅到着。文字数の都合により球場飯や大阪、名古屋飯の紹介ができない事をお詫び申し上げます。（時刻等は、現在版に修正しています）

今日、5月11日時点で、首位ヤクルトより遅れる事1ゲーム差の2位ではありますが上々のスタートが切られました。これから球団史上初の連覇に向け今シーズンも5試合観戦計画中です。阪神タイガースファンの方やこれから興味が湧く方々がいましたら気軽に声をかけてください。長野の地から一緒に盛上げ応援しましょう。

最後になりましたが野球場の阪神タイガースファンは、怖いおっさんや怖い兄ちゃんだらけのイメージは、偏見ですでお伝えして終わりに致します（笑）。



甲子園駅型枠カラータイル
甲子園駅バージョン

家の歴史を語る資料

松代文化施設等管理事務所
研究員 山中 さゆり

真田宝物館は、松代藩真田家伝来の大名道具を収蔵・展示する施設ですが、これまでも何度かお伝えしている通り、真田家の資料だけを収蔵しているわけではありません。古文書を中心に、数多くの方から資料を寄贈・寄託していただいています。昨今、様々な理由で、家に伝わる資料すべてを真田宝物館に託してくださる方も増えています。今回は、そうした「家」単位の資料について、ご紹介します。

「家」単位の資料といっても、あまりピンとこない方も多いと思います。ここでいう「家」単位の資料とは、「その家に伝わった資料ほぼすべて」という意味で使っています。「ほぼ」としたのは、家によっては、系図だけは手元に置きたい、というご希望や、愛着のある掛軸を手元に残される方などがおられるからです。

いずれにしても、その「家」に伝来したほとんどすべての資料であることには変わりがなく、大量の古文書をはじめ、巻物や掛軸、刀剣や調度品が含まれていることもあります。その量は「家」によってまちまちで、六畳の部屋の壁面をぐるりと囲むように置かれた大量の本箱とタンス内すべて、という場合や、ミカン箱ほどの段ボール2〜3箱のみ、という場合、土蔵の中にあるものすべて、という場合もあります。

「家」単位の資料は、その家の成り立ちから歴史まで、よくわかる資料が含まれていることが多く、時代を追って家のあり方やその変遷を探ることができます。一括してその家の資料を委ねてくださるので、その家での古文書のあり方、整理の有無も分かります。また、多くは、松代藩士の家、すなわち真田家の家臣であった家なので、その資料から、逆に松代藩や松代藩政、真田家についてもわかることがたくさんあります。これは、真田家に伝来した資料だけではなく、違った視点から物事を見ることができるということでもあり、学術的にも大変意義のあることです。



「幕末の赤澤家当主・赤澤安実画像(部分)」

資料を託そうとしてくださる方々は、先祖代々資料を大切に守り伝えてこられ、さらにそれを活かしてほしいとお話してくださいます。大変有難いことで、そのご意向に沿うよう、最大限に活用したいと思っています。しかし、こうした資料が増え、資料の整理が追い付かないのが現状で、なんとか資料整理を進め、目録を作成し、早く研究や展示に使えるようにするというのが私たちの目標です。

こうした中、ある一軒のお宅から寄託された資料の整理が完了し、それを活かすために企画、開催しているのが、企画展「資料からよみとく 松代藩士・赤澤家の歴史」です。赤澤家は、真田昌幸・信之の時代から真田家に仕えた家臣で、幕末まで松代藩士として藩政の主要な役職を歴任してきた家です。その資料は古文書・絵図・掛軸・調度品など総数約4650点を数え、真田宝物館所蔵の寄贈・寄託資料のなかでも、かなり多いものといえます。数年かけて整理した資料の中には、真田信之の書状が複数含まれるほか、赤澤家の当主の肖像画や美術品もあります。佐久間象山とかかわりのあった人物や、恩田家・鎌原家といった家老を務めた家から養子入りしている人物が複数存在したため、これらの家に関係する資料もたくさんあります。個々の資料の詳しい分析はこれからも続けていきますが、まずは資料からわかる赤澤家について、企画展でご覧いただくことができます。この豊富な資料が、「家」単位の資料の重要性を物語っていることがご理解いただけるでしょう。

● 長野県建設業協会長野支部

1月 22日	△表彰特別委員会
2月 4日	△監理技術者講習会 △生コンクリート品質管理監査報告会 出席
2月 9日	△正副支部長会議
2月 17日	△理事・監事・顧問・相談役会議
2月 18日	△県協会事務局長会議
3月 5日	△北信ブロック会議
3月 6日	△小規模補修工事に係る意見交換会
3月 16日	△正副支部長会議
3月 25日	△正副支部長・顧問・相談役会議
4月 7日	△正副支部長あいさつ回り △予算編成会議
4月 8日	△監理技術者講習会
4月 14日	△理事・監事・顧問・相談役会議
4月 17日	△第43回献血ボランティア「建設で 献血だ！」(市協会合同)
4月 23日	△二団体合同役員会
4月 24日	△土木正副委員長会議

● 長野市建設業協会

2月 12日	△長野市議会建設企業委員会との懇談 会
3月 16日	△正副会長会
3月 24日	△長野市教育委員会教育長へ学校教育 への参加会員名簿手交
3月 25日	△理事会 △顧問会議
4月 2日	△市建設部幹部職員あいさつ来館 △広報委員会
4月 14日	△令和7年度会計・業務監査 △正副会長会
4月 17日	△第43回献血ボランティア「建設で 献血だ！」(支部合同)
4月 22日	△理事会
4月 23日	△二団体合同役員会
4月 24日	△土木正副委員長・緊急時対策本部班 長会議

● 関連団体

1月27～28日	建災防：△型枠支保工の組立等作業主 任者技能講習会
1月 29日	犀協会：△安全祈願△新年総会
2月 10日	長住協：△信州健康ゼロエネ住宅普及 促進協議会
2月 16日	建災防：△安全指導者会
3月 4日	建災防：△年度末安全パトロール △安全指導者会
3月 12日	技士会：△正副支部長会議
3月 18日	長住協：△JBN連携団体事務局会議

3月 26日	犀協会：△正副会長・相談役会議
4月 6日	犀協会：△正副会長あいさつ回り
4月 10日	技士会：△準備講習講師打ち合わせ会
4月 24日	建災防：△建設業職長等能力向上教育 研修会
4月 28日	長住協：△正副会長会議
4月 30日	会 館：△監査会・取締役会

会員動静

●代表者変更(支部)

(株)中村組 〆 小山田真也 〆 中村 庄市

●代表者変更(市)

野村建設(株) 〆 飯島 泰臣 〆 野村 和正

●退会(支部)

内山産業(有)

編集後記

今年4月1日から道交法が大きく改正されました。編集後記の原稿依頼を受けてから数日が立ち、全国的に取り締まりが始まり、青切符が切られている様子が報道されています。私達が特に気を付けたい点は、自転車の追い越し時最低でも1m以上の間隔が必要の為、狭い道路で車の運転は細心の注意が必要です。

毎年この4月はどこかしこに可愛いヒヨコが大きなランドセルを背負って集団登校をしています。ヒヨコは目に映った興味のあるものに夢中になり、周りを良く見ないで行動しがちで、いつ道路へ飛び出るかヒヤヒヤさせます。

どんな状況下であっても車と人間とでは、強いのは車です。災いが自身に降りかからない様にアクセルは控えめに、日々無事故で過ごしたいものです。

(北澤明義)

発行所 一般社団法人長野市建設業協会

<https://sikenkyo.sakura.ne.jp/>

長野市岡田町124-1 長水建設会館内

TEL026-224-3660 Fax026-228-6231

長野県建設業協会長野支部

<http://w2.avis.ne.jp/~nkn/>

長野市岡田町124-1 長水建設会館内

TEL026-227-6226 Fax026-228-6231

発行責任者 鹿熊 聡 川浦 俊樹

編集責任者 柳沢 昌宏

編集製作 長野経済新聞社

建設ながのNo.237 令和8年5月発行